

Contraceptive Use by Method 2019

方法別の避妊手段について

表紙

国際連合経済社会局

方法別の避妊手段について (2019)

データブックレット

1p

国際人口開発会議（ICPD）の行動計画には、女性と男性が安全で効果的な家族計画の最も幅広い選択肢にアクセスできるようにし、十分な情報に基づく自由な選択を行使できるようにすることへの明確なコミットメントが含まれています。ただし、適切な方法は、年齢、出産回数、希望する家族の規模、その他の要因によってカップルや個人によって異なることには留意が必要です（国連、1995年、パラグラフ 7.23）。持続可能な開発目標（SDGs）の指標 3.7 では、「2030年までに、家族計画、情報、教育を含む性と生殖に関する保健サービスへの普遍的アクセスを確保し、リプロダクティブヘルスを国家方針と政策に含むこと」を各国に求めています。この目標への進捗評価のために、用いられる避妊法の範囲と種類を含む、主要な家族計画指標のモニタリングが必要です。

男性用コンドーム、膣外射精、リズム法など一部の避妊法は何千年も前から使用されていますが、ピルや子宮内避妊具（IUD）などの方法は1960年代から使用され始めました。数十年後、膣リング、緊急避妊薬、皮下注射やインプラントが利用可能になりました。出産を完全に中止するか、妊娠を遅らせるかというそれぞれ異なる妊娠予防のニーズに対して、適切で効果的な方法によって対応する必要があります。家族計画のニーズは、個人の状況や出産に関する希望（子どもの数、出産のタイミングと間隔）の変化に応じて、生涯を通じて変わっていきます。マクロの観点では、避妊の普及率と方法の組み合わせは、出産の希望、出生率の傾向、結婚やパートナーシップの形成パターン、生殖年齢の女性の年齢構成の変化等の要素によって変わってきます。利用可能なすべての避妊法には長所と短所があります。時々しか性的に活動的でなく、数ヶ月または数年間妊娠を遅らせたい女性は、IUDやインプラント（通常、サービス提供者を訪問して装置を取得・除去する必要がある）や不妊手術などの永久的な方法よりも、自分で開始・中止できる短期的な方法を好む場合があります。特定の避妊法の副作用や不便さの経験や認識、および妊娠予防の効果は、使用する方法の選択に役割を果たします。しかし、女性とそのパートナーが利用できる選択肢の範囲は、様々な方法の地域での利用可能性とアクセス性に依存します。

特定の避妊法の普及率は世界中で大きく異なります。方法の組み合わせは、関連政策の変更、医療システムの変化、新技術の開発、様々な方法へのアクセスの変化により、時間とともに変化してきました。家族計画およびリプロダクティブヘルスケ

アサービスの提供と使用、および特定の方法の使用を促進し正当化する上で、さまざまなレベルでの行政の役割は非常に大きく、顕著な役割を果たしてきています。

2p

2019年の世界の生殖年齢（15-49歳）の女性19億人のうち、11億人が妊娠コントロールのニーズを有しています。つまり、彼女たちは何らかの避妊法を用いているか（8億4200万人が近代的な避妊法を使用し、8000万人が伝統的な方法を使用）、あるいは実施はできていないものの妊娠コントロールのニーズを有しています（1億9000万人の女性が妊娠を避けたいと望んでいるが、避妊法を用いられていません）。2019年において、現代的な方法によって妊娠コントロールのニーズが満たされている女性の割合（持続可能な開発目標の指標3.7.1）は76パーセントです。

3p

女性の不妊手術は世界中で最も一般的に使用されている避妊法です。2019年には、現在避妊法を用いている女性の23.7パーセント、つまり2億1900万人の女性が女性不妊手術に依存しています。他にも3つの方法が世界中で1億人以上によって用いられています：男性用コンドーム（1億8900万人）、IUD（1億5900万人）、そしてピル（1億5100万人）です。全体として、避妊法使用者の45.2パーセントが永久的または長期的な方法（女性および男性の不妊手術、IUD、インプラント）に依存し、46.1パーセントが短期的な方法（男性用コンドーム、ピル、注射剤、その他の現代的な方法など）に、そして8.7パーセントが伝統的な方法に依っています。

4p

東アジアおよび東南アジアでは、IUDが最も一般的な避妊法で（18.6パーセントの女性がこの方法に依存）、男性用コンドームがそれに近い割合（17.0パーセント）で続いています。ヨーロッパと北アメリカでは、ピルと男性用コンドームが最も一般的に使用されている方法です（それぞれ女性の17.8パーセントと14.6パーセント）。一方、ラテンアメリカとカリブ海地域では、女性の不妊手術とピルが最も一般的です（それぞれ16.0パーセントと14.9パーセント）。オセアニアでは、主要な方法はピル（16.9パーセント）で、中央アジアと南アジアでは女性の不妊手術です（21.8パーセントの女性がこの方法を用いています）。北アフリカと西アジアでは、最も一般的な2つの方法はピル（10.5パーセント）とIUD（9.5パーセント）です。サハラ以南のアフリカは、注射剤が主要な方法となっている唯一の地域で、生殖年齢の女性の間で9.6パーセントの普及率があります。

5p

特定の避妊方法の普及率は、世界レベルおよび地域レベルで緩やかに変化してきました。女性の不妊手術の世界的な普及率は、1994年の13.7パーセントから2019年には11.5パーセントに減少しました。中央アジアと南アジアは、女性の不妊手術の

普及率が1994年の17.0パーセントから2019年には21.8パーセントに増加した唯一の地域です。男性の不妊手術の世界的な普及率は、同じ期間に3.0パーセントから0.8パーセントに減少しました。世界的に、ほとんどの地域で、ピル、IUD、リズム法、及び膣外射精法の普及率は過去25年間で比較的安定しています。男性用コンドームの普及率は世界的に1994年の4.5パーセントから2019年には10.0パーセントに倍以上増加し、東アジアと東南アジアで5.0パーセントから17.0パーセントへと最大の増加を示しました。サブサハラアフリカ諸国で避妊の実施が普及するにつれ、インプラント、注射剤、および男性用コンドームの普及率が増加しました。ラテンアメリカとカリブ海地域では、避妊の継続的な普及率の増加は、注射剤、ピル、および男性用コンドームの使用の急速な増加によるものです。リズム法と膣外射精法の普及率は1994年以降減少しており、ヨーロッパと北アメリカで最も急激な減少が見られます。

6p

女性不妊手術やIUDなど一部の方法の普及率は1994年以降世界レベルで減少しているものの、人口増加により、これらの方法を使用する女性の総数は増加しています。女性不妊手術を用いる女性の数は1994年から2019年の間に1億9500万人から2億1900万人に増加し、IUDを用いる女性の数は1億3300万人から1億5900万人に増加しました。同期間で使用者数が減少したのは2つの方法のみとなっています。男性不妊手術は4300万人から1600万人に、リズム法は3600万人から2900万人に減少しました。最大の増加は男性用コンドーム（6400万人から1億8900万人）または注射剤（1700万人から7400万人）を用いる女性の数となっています。避妊手段を含む妊娠コントロールの方法の提供を適切に計画するためには、生殖年齢の女性の人口増加を考慮に入れることが重要です。